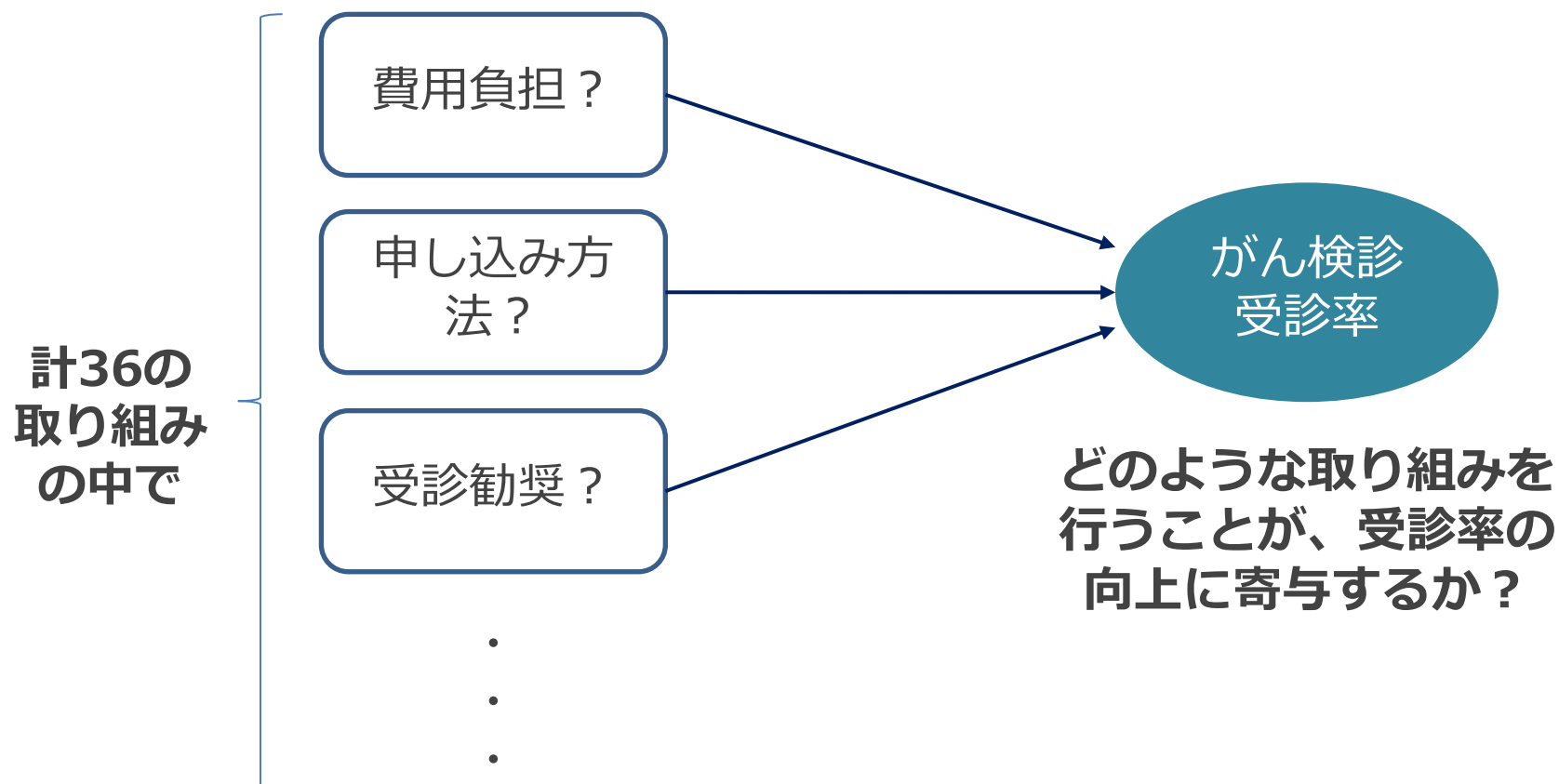


アンケートで明らかになった、受診率に効く12の取り組み

がん対策推進企業アクション アドバイザリーボード
福吉潤（株式会社キャンサーズキャン）

調査目的

従業員やその家族などのがん対策に各企業・団体が工夫を凝らす中、どのような取り組みが受診率の向上に寄与するのか。今回のパートナーアンケートの回答をもとに、相関関係が高い取り組みを調べる取り組みを実施した。

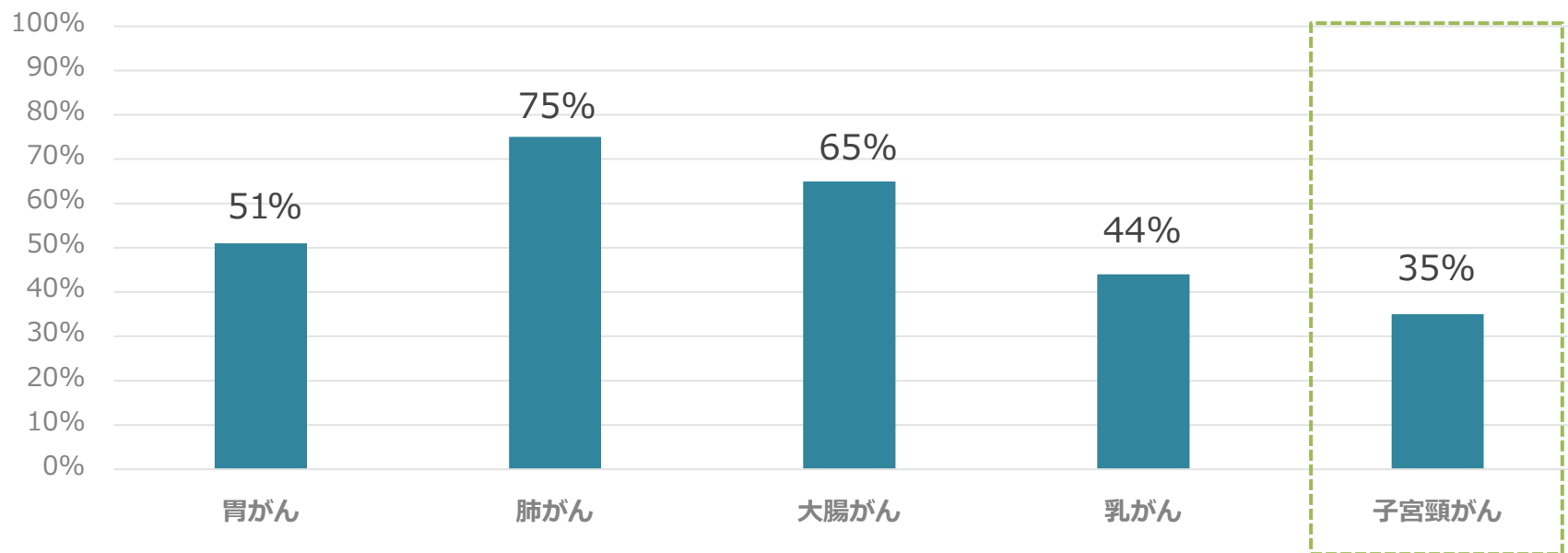


5がん検診の受診率

胃癌や肺がんの検診受診率はそれぞれ51%、75%であるのに対し、子宮頸がんの検診受診率は35%と低い。他のがん検診よりも早い20歳から検診の対象になることを考えると、企業のほとんどの女性従業員にとって関係のある子宮頸がん検診の受診率向上は非常に重要である。

■ 5がん 受診率

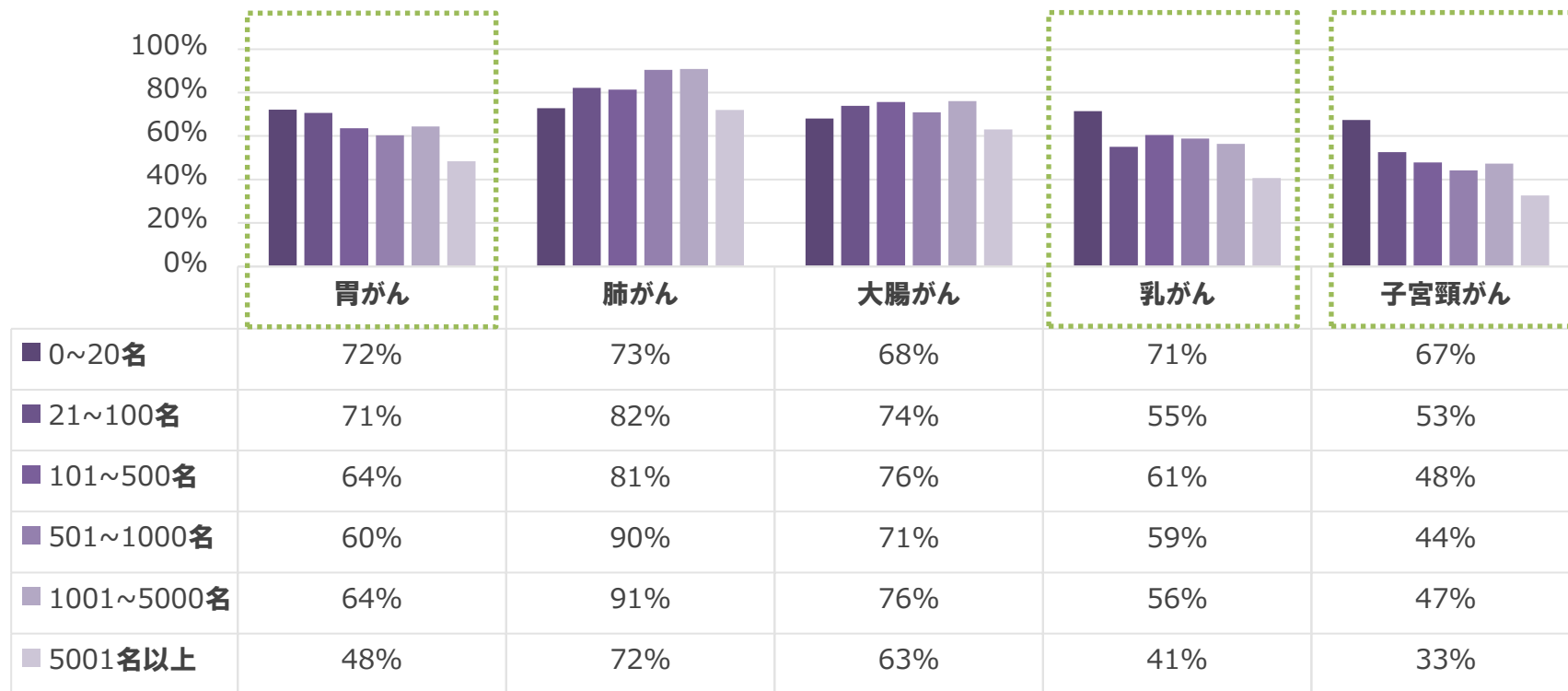
➤ 加重平均



企業規模別のがん検診受診率

企業の規模ごとの検診受診率を見ると、企業規模が大きくなるほど、むしろ検診受診率が低下する傾向が分かる。ただし、この数字はあくまでも「受診率を把握している」企業・団体のみの結果である。

企業規模別の5がん検診受診率*

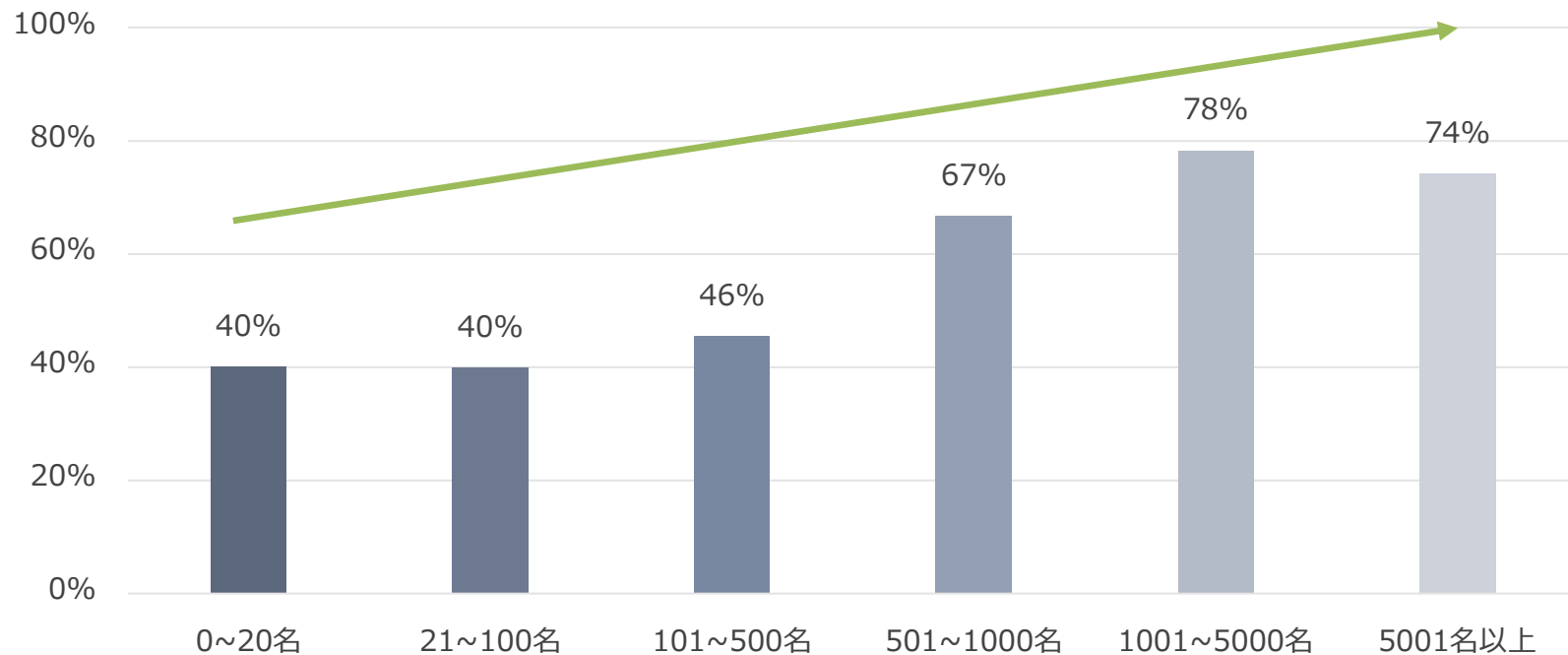


* 受診率を回答した団体内での割合・従業員数によって加重平均

受診状況の把握

受診率の把握状況を調べると、前頁の受診率とは逆の傾向が見られ、大企業ほど受診率を把握できている割合が高く、中小企業は把握する仕組みがあると答えた企業が少なかった。

従業員のがん検診（1次検診）の受診状況を把握している企業の割合*



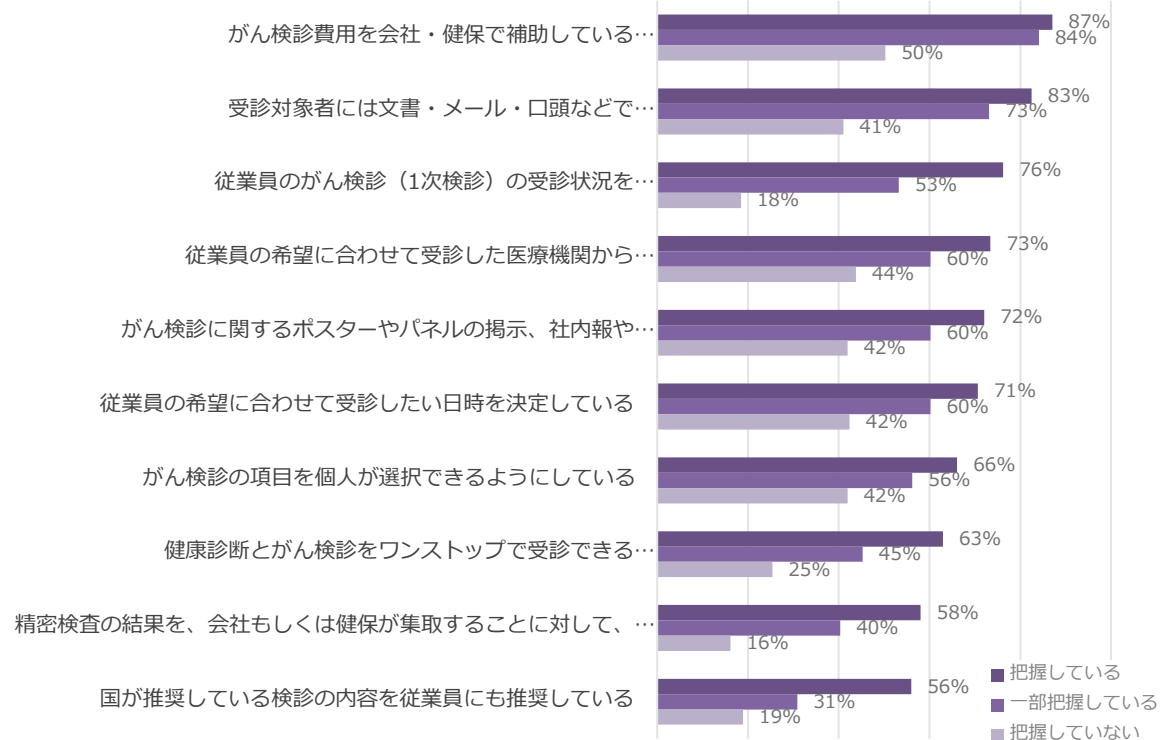
* 従業員のがん検診（1時検診）の受診状況を把握する仕組みがあると回答した企業の割合

企業規模別のがん検診受診率と受診状況把握

つまり、企業規模によって受診率が決まるのではなく、受診率を把握する仕組みがある一部の中小企業で受診率が高かったと見ることができる。企業規模を問わず、受診率を把握する仕組みを作るなどがん対策に力を入れている企業では、総じて受診率が高い。がん検診を受診しているかどうか把握して、受けていない人には受診勧奨をするということが、がん対策の一丁目一番地と言える。

	把握する仕組みあり	受診率
大企業	多い	低い
中小企業	少ない	高い

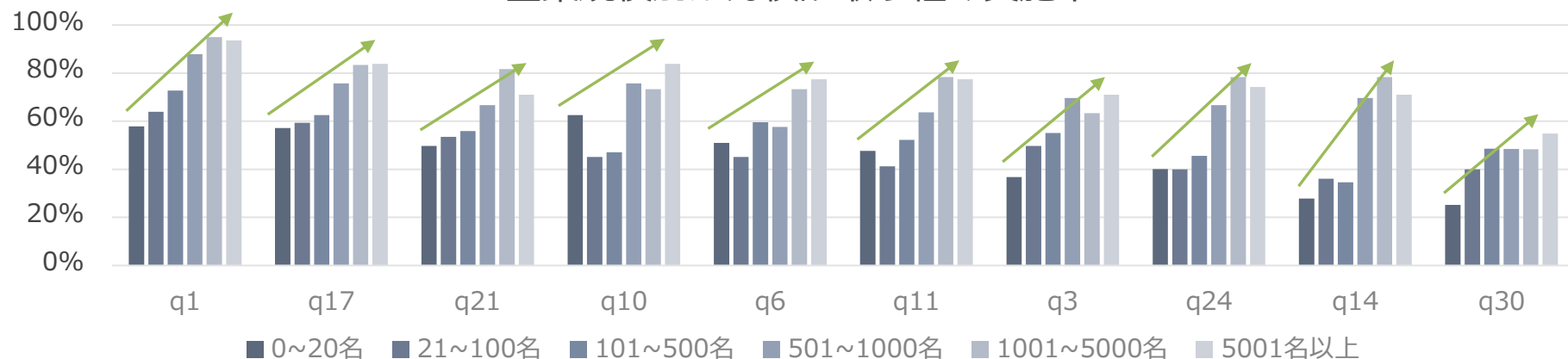
受診把握状況別 取り組み実施率Top10



企業規模別の取組状況

受診率向上のために行われている策の中から事前に36の取り組みをピックアップし、それぞれの取り組みの状況を調べた。すると、企業規模が大きくなるほど多くの取り組みを実施していることが分かった。例えば、がん検診の費用を会社で負担しているという大企業は90%に近いが、中小企業では50%程。中小企業では限られた予算の中で工夫し、厳選した策を実施している可能性がある。

企業規模別がん検診取り組み実施率



q1 がん検診費用を会社・健保で補助している(全額または一部)

q17 受診対象者には文書・メール・口頭などで受診を促すお知らせをしている

q21 がん検診に関するポスターやパネルの掲示、社内報やセミナーなどを通じて、がんに対する情報を発信している

q10 従業員の希望に合わせて受診した医療機関から選択できるようにしている

q6 従業員の希望に合わせて受診したい日時を決定している

q11 がん検診の項目を個人が選択できるようにしている

q3 検診にかかる自己負担分の費用を窓口支払いではなく給与天引きにしている

q24 従業員のがん検診(1次検診)の受診状況を把握する仕組みがある

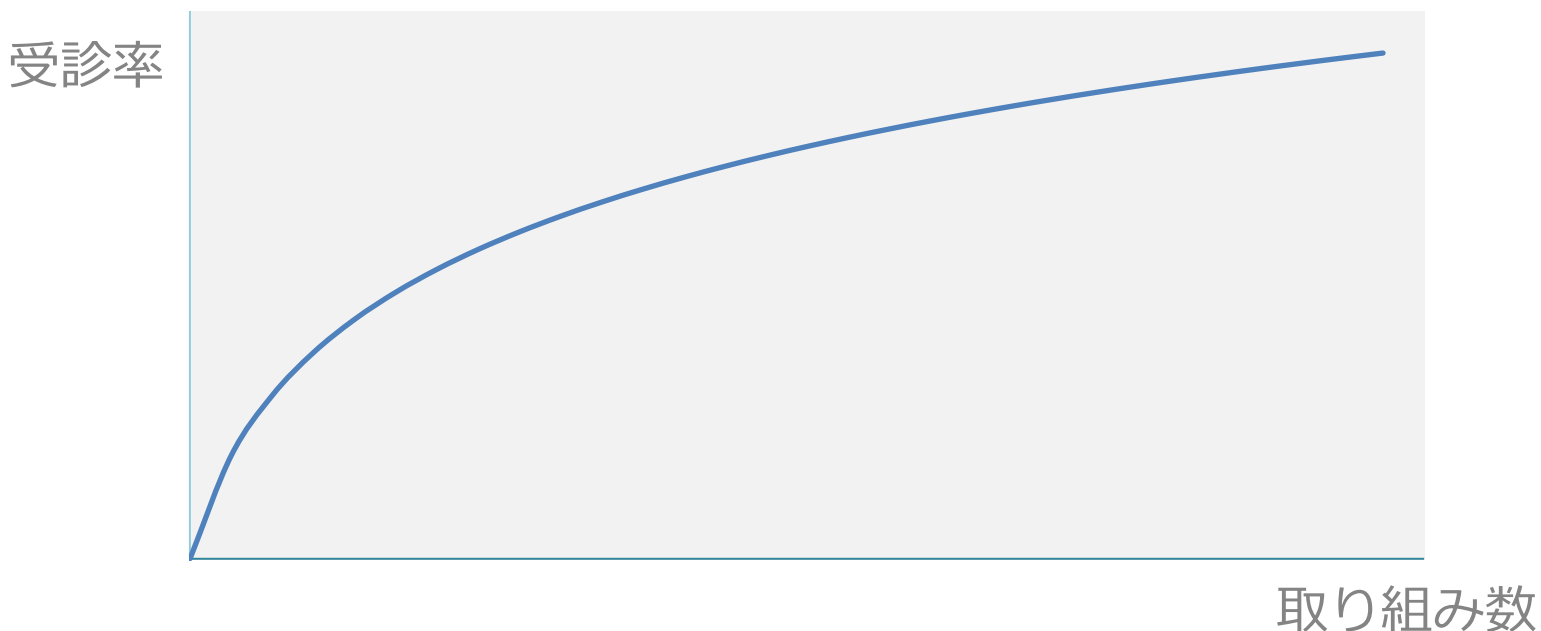
q14 健康診断とがん検診をワンストップで受診できる体制を整えている

q30 安全衛生委員会で議題として取り上げ、受診勧奨するよう管理職に通知している

がん検診に関する取組実施数と受診率向上の関係性

もちろん、多くの取り組みを行っているほど受診率は向上するだろう。しかし、限られた取り組みでも受診率を上げられればそれに越したことはない。実際に、検診に関する取組の数と受診率向上は比例関係ではなく指数関数的な関係を示しており、効率的に受診率を向上させられる幾つかの取り組みがあるはずである。

がん検診に関する取組数と受診率向上の関係性（イメージ）

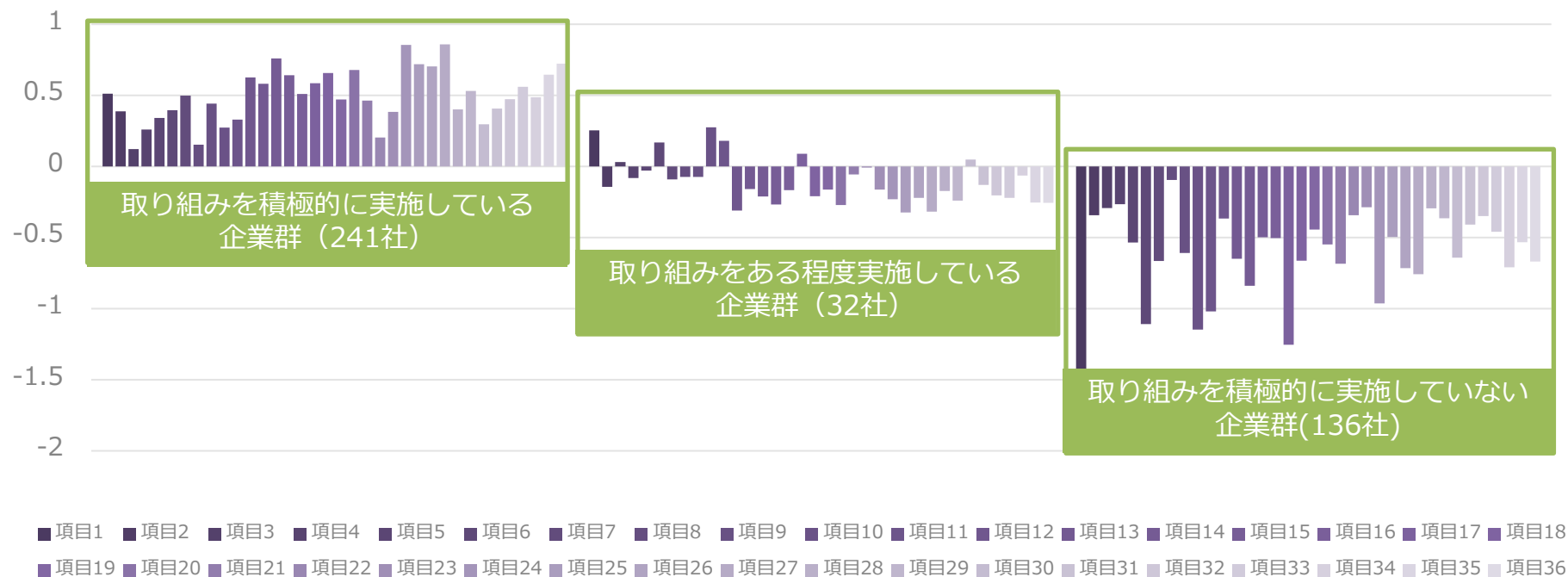


取組状況を基にした3クラス

受診率を回答した企業・団体を、特徴や傾向に応じて以下3つのクラスに分けた。

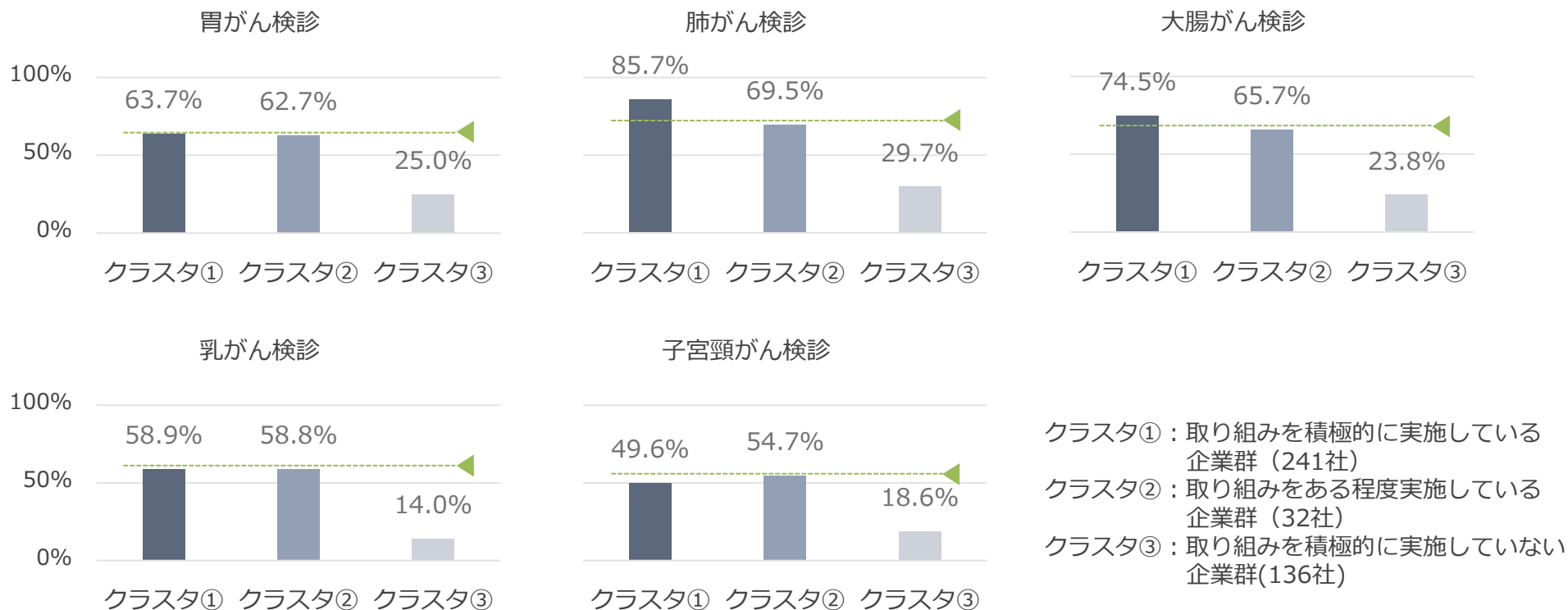
- ①36の取り組みのほとんどを積極的に実施している企業241社
- ②36の取り組みをある程度実施している32社
- ③36の取り組みをほとんど実施していない136社

がん検診に関する取組の実施状況別3分類



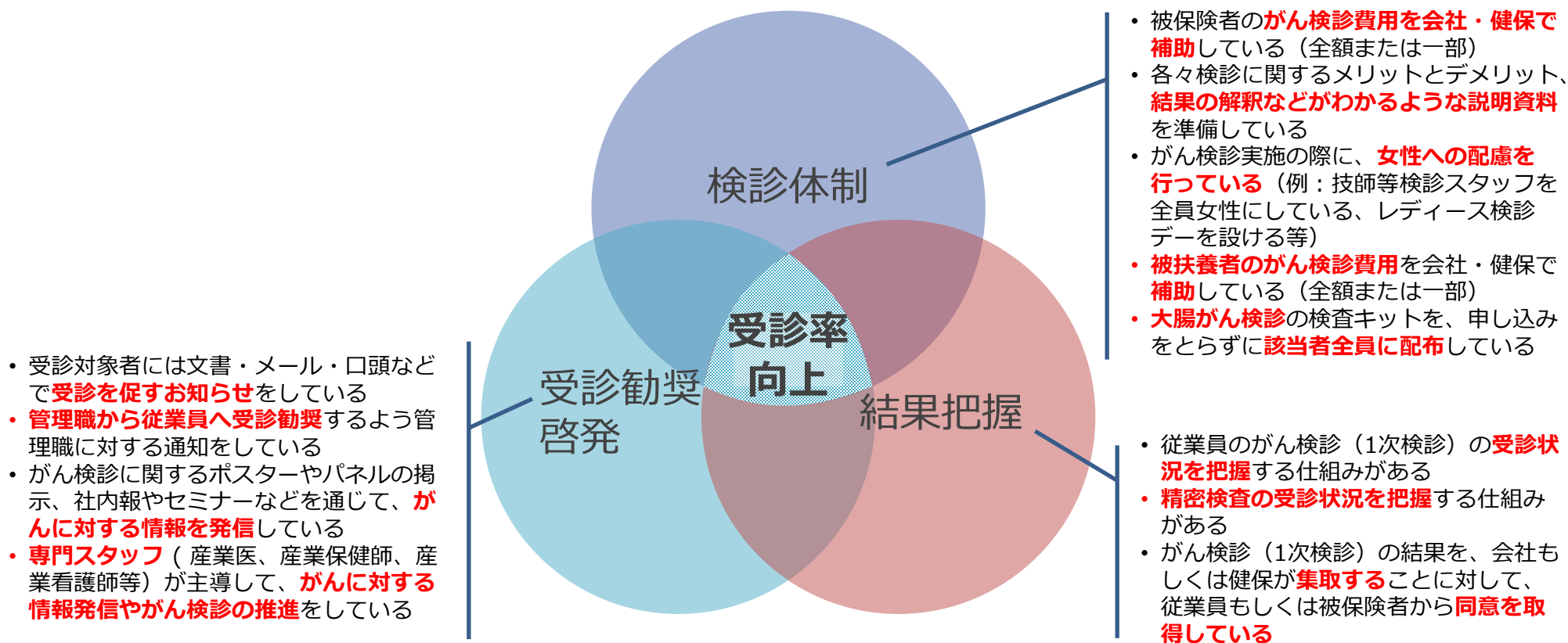
クラスター別がん検診受診率

3クラスターにおいて受診率を比較すると、当然①と③の間には大きな差があったが、①と②はかなり近い受診率であった。つまり、「限られた取り組みを行うだけでも受診率の向上がかなり見込める」ことが分かる。



受診率に効く12の取り組み

そこで、②の企業群が特異的に行っていた12の取り組みを割り出した。結果として、検診体制、受診勧奨・啓発、結果把握に関する取り組みが、企業のがん検診受診率によい影響を与えらる。



受診率に効く12の取り組み:

1	受診勧奨について	受診対象者には文書・メール・口頭などで 受診を促すお知らせ をしている
2	検診の結果把握について	従業員のがん検診（1次検診）の 受診状況を把握する仕組み がある
3	検診の結果把握について	精密検査の受診状況を把握 する仕組みがある
4	費用負担について	がん検診費用を会社・健保で 補助している （全額または一部）
5	検診受診その他について	各々検診に関するメリットとデメリット、 結果の解釈などがわかるような説明資料を準備 している
6	受診勧奨について	管理職から従業員へ受診勧奨 するよう管理職に対する通知をしている
7	検診の結果把握について	がん検診（1次検診）の結果を、会社もしくは健保が集取 することに対して、従業員もしくは被保険者から 同意を取得 している
8	検診受診その他について	がん検診実施の際に、 女性への配慮を行っている （例：技師等検診スタッフを全員女性にしている、レディース検診デーを設ける、等）
9	啓発について	がん検診に関するポスターやパネルの掲示、社内報やセミナーなどを通じて、 がんに対する情報を発信 している
10	啓発について	専門スタッフ（産業医、産業保健師、産業看護師等）が主導 して、がんに対する情報発信やがん検診の推進をしている
11	被扶養者の受診について	被扶養者のがん検診費用 を会社・健保で補助している（全額または一部）
12	検診受診その他について	大腸がん検診 の検査キットを、申し込みをとらずに 該当者全員に配布 している

- 受診率は肺がん検診が最も高く83%、子宮頸がん検診が最も低く46%であった
- 規模が小さい企業では、受診状況を把握している割合は低いが検診受診率は高い傾向があり、がん検診に関する取り組みを積極的に行った結果が奏功していると考えられる
- 一定程度取組を実施している企業群は、積極的に取り組みを実施している企業群と同程度の受診率であり、取り組みをほとんど実施していない企業群とは大きな差が見られた
- 特に受診率との関連が見られた検診体制、受診勧奨・啓発、結果把握に関する取り組み（受診率に効く12の取り組み）から始めることにより、効率的・効果的に受診率向上につながるのではないかと考えられる



日頃の啓発

受診勧奨

検診の実施

- ・がん検診に関するポスターやパネルの示、社内報やセミナーなどを通じて、**がんに対する情報**を発信している
- ・**専門スタッフ**（産業医、産業保健師、産業看護師等）が主導して**がんに対する**

- ・受診対象者には文書、メール、口頭などで**受診を促すお知らせ**をしている
- ・**管理職から従業員へ受診勧奨**するよう管理職に対する通知をしている

- ・各々検診に関するメリットとデメリット、結果の**解釈などがわかるような説明資料**を準備している
- ・被保険者の**がん検診費用**を会社・健保で補助している（全額または一部）
- ・**大腸がん検診**の検査キットを、申し込みをとらずに該当者全員に配布している。
- ・がん検診実施の際に、**女性への配慮**を行っている（例：技師等検診スタッフを全員女性にしている、レディース検診デーを設ける等）
- ・**被扶養者のがん検診費用**を会社・健保で補助している（全額または一部）



二次検診の結果把握

精密検査の受診状況を把握する仕組みがある



二次検診の受診

がん検診（1次検診）の結果を、会社もしくは健保が**集取**することに対して、従業員もしくは被保険者から**同意**を取得している